

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名 函館・江差自動車道（一般国道228号） 茂辺地木古内道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局			
起終点 自：北海道北斗市茂辺地 至：北海道上磯郡木古内町字大平	延長 16.0 km				
事業概要 函館・江差自動車道は、函館市を起点とし、北斗市、木古内町を經由して江差町に至る延長約70kmの自動車専用道路である。 このうち茂辺地木古内道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び重要港湾函館港、拠点空港函館空港等への物流効率化等の支援を目的とした、北斗茂辺地インターチェンジから木古内インターチェンジ（仮称）に至る延長16.0kmの事業である。					
H6年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	H10年度用地着手	H13年度工事着手		
全体事業費	約707億円	事業進捗率	62%	供用済延長	0.0km
計画交通量	10,200台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/ (事業全体) 295/651億円 (事業費：266/623億円) (維持管理費：28/28億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 729/729億円 (走行時間短縮便益：573/573億円) (走行経費減少便益：112/112億円) (交通事故減少便益：43/43億円)	基準年	平成25年
感度分析の結果 事業全体および残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.01~1.2（交通量±10%）【残事業】交通量：B/C=2.2~2.7（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1~1.2（事業費±10%） 事業費：B/C=2.2~2.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1~1.2（事業期間±20%） 事業期間：B/C=2.4~2.5（事業期間±20%）					
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①主要都市間の利便性向上 ・函館市と江差町の所要時間が短縮され、渡島西部・檜山南部地域の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。 ②物流の利便性向上 <水産品の流通利便性向上> ・マグロやスルメの流通利便性が向上し、松前町「総合計画」の目標としている水産物のブランド化による漁業関係者の所得向上に貢献し、地域の生産性向上が期待される。 <農産品の流通利便性向上> ・速達性及び定時性の高い輸送ルートが確保され、知内町から道内外に運ばれるニラの流通利便性が向上し、知内町「まちづくり総合計画」のニラ生産量増加に貢献。また、輸送時のトマトの荷傷み等が軽減され、生産量増加と品質確保によるブランド力向上に貢献し、地域の生産性向上が期待される。 ③観光地への利便性向上 ・木古内町と函館市との所要時間短縮や利便性向上が図られ、広域観光の活性化を支援し、観光入込客数の目標達成に貢献する。 ④救急搬送の安定性向上 ・松前町から函館市の医療施設までの所要時間が短縮されるなど、高次医療施設への救急搬送の迅速性・安定性向上が期待される。 ⑤道路交通の安全性向上 ・並行現道から当該道路への交通転換が見込まれ、隣接区間同様に道路交通の安全性向上が期待される。 ⑥災害時の緊急輸送ルートの強化 ・津波浸水想定区域を回避し、緊急時の避難や迅速な救急搬送、救援物資輸送の確実性向上が期待される。					

⑦日常生活の利便性向上

- ・移動時間の短縮が図られ、販売地区の増加や販売時間の延長など、日常生活の利便性向上が期待される。

⑧CO2排出量の削減

- ・自動車からのCO2排出量3,854 (t-CO2/年) の削減が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

函館市など2市16町の首長等で構成される「高規格幹線道路函館・江差自動車道早期建設促進期成会」等より早期整備の要望を受けている。

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、重要港湾函館港、拠点空港函館空港、新幹線駅へのアクセス強化が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、より一層、徹底したコスト削減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・函館新道が七飯藤城IC～函館ICまで開通
- ・函館・江差自動車道が函館IC～北斗茂辺地ICまで開通
- ・北海道縦貫自動車道が八雲IC～大沼公園ICまで開通
- ・函館新外環状道路が函館IC～赤川ICまで開通
- ・一般国道278号尾札部道路が函館市尾札部町～豊崎町まで開通
- ・一般国道278号鹿部道路が全線開通
- ・北海道新幹線 新青森駅～新函館北斗駅間開業
- ・道南いさりび鉄道開業
- ・市町村合併により、「函館市」「森町」「八雲町」「北斗市」が誕生
- ・「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」指定
- ・道の駅「みそぎの郷きこない」開業

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成13年度に工事着手して、用地進捗率99%、事業進捗率62%となっている。(平成28年3月末現在)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

平成31年度：北斗茂辺地IC～(仮称)木古内IC 延長16.0km(2/4)開通予定

施設の構造や工法の変更等

トンネル掘削パターンの変更や不良土対策の見直し及び埋蔵文化財調査費の変更。引き続きコスト削減に取り組んでいく。

対応方針

事業継続

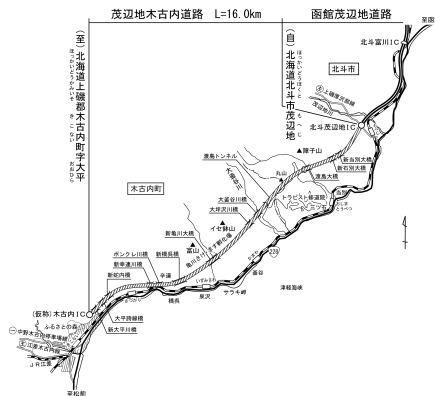
対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



凡 例	
==	開 通 区 間
////	再 評 価 区 間



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 費用対効果分析に係る項目は平成25年評価時点。